

2019年度

第59回 日本社会学史学会大会プログラム

期日：2019年6月29日（土）～30日（日）

会場：尚絅学院大学（4号館3F・328教室）

☆第一日目 6月29日（土）

- I 理事会 (13時～13時50分)
- II 開会の辞 (13時55分～) 日本社会学史学会会長 千葉芳夫
- III 一般研究報告1 (14時～15時15分) 司会 田中紀行(京都大学)
- ①アロンとブルデュー：2つの「革命」の間で 磯 直樹(慶応義塾大学)
- ②亡命ロシア知識人としてのP. A. ソローキン 吉野浩司(長崎ウエスレヤン大学)
- ③行為システムとしてのカリスマ
—パーソンズの宗教社会学における象徴的メディア論の可能性— 大黒正伸(創価大学)
- IV 一般研究報告2 (15時25分～16時40分) 司会 江頭大蔵(広島大学)
- ④福田恒存研究の社会学的含意 松野靖子(関西学院大学)
- ⑤ポスト大衆社会
—清水幾太郎から小谷敏まで— 早川洋行(名古屋学院大学)
- ⑥未来社会論の構想
—その三の二— 飯田哲也(立命館大学)
- V 総会 (16時40分～17時10分)
- 総会終了後、懇親会会場まで無料バスで移動します—
- VI 懇親会 (18時～20時) 《仙台ガーデンパレス》無料バス迎車

☆第二日目 6月30日(日)

VII シンポジウム (10時30分～14時50分)

共通テーマ《グローバル化と各国社会学理論の新潮流—ヨーロッパの社会学—》

司会 鈴木健之 (立正大学)

出口剛司 (東京大学)

●報告1 マルチパラダイムの終焉？

2018年ドイツ社会学会ゲッティンゲン大会短報

森川剛光 (慶応義塾大学)

●報告2 社会的行為者と社会的世界

—ブルデュー社会学との距離をめぐって—

村井重樹 (島根県立大学)

●報告3 グローバリゼーションと再帰的近代化

—ギデンズからラッシュヘー—

中西眞知子 (中京大学)

●討論者1 三上剛史 (追手門学院大学)

●討論者2 白鳥義彦 (神戸大学)

趣旨説明 (10時30分～10時40分)

報告 (10時40分～11時55分)

休憩 (11時55分～13時)

討論 (13時～13時30分)

リプライ (13時30分～13時50分)

フロア・総括 (13時50分～14時50分)

【大会のご案内】

- 報告時間 自由報告は25分（報告15分、質疑応答10分）
シンポジウムの報告時間は各25分、討論者発言は各15分
- 大会参加費 一般会員2,000円 学生会員1,000円（非学生会員含む）
- 懇親会費 一般会員4,000円
-
- 大会・総会会場 4号館3F・4-328教室
- 会員控え室 4号館3F・4-306教室
- 理事会会場 4号館3F・4-307教室
- 懇親会会場 仙台市内「仙台ガーデンパレス」(大学から無料バスが出ます)
-
- 論文抜刷 1週間前までに事務局へ文書を持って必ずお申し出ください
書籍等扱い 大会当日の申し込みは一切お受けできません。厳守ください
- コピーについて コピーは個人の責任でお願いします。大会開催校および事務局では、一切のコピーサービスをお断り申し上げます
-
- 開催校所在地 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1
(大会本部) 尚絅学院大学総合人間科学部太田健児研究室
TEL 022-381-3406 (研究室直通)
-
- 飲食施設 大学周辺に飲食店・コンビニ等はありません。日曜日はお弁当の予約販売をおこないません。各自でご用意をお願いします
-
- 交通機関 最寄り交通機関および学内案内は右図参照
校舎案内 (詳細は、本学会HPおよび尚絅学院大学HPをご覧ください)
30日(日)の大会終了後、仙台空港および仙台駅への無料の直行バスをご用意いたします。(詳細は大会会場にてご案内します)。

☆日本社会史学会事務局

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部社会学研究室
TEL 03-5317-8978 (事務局直通)
FAX 03-5317-9423 (学科研究室)

<http://www.jashs.jp/>

(電話でのお問い合わせは、水・木)